



有明高専だより

第108号

2002.11



目次

特集 専攻科学生座談会	2・3
研究室訪問	4
中学校訪問	5
ロボットJリーグ・公開講座 校内見学会	6
夏季実習報告	7
第23回高専祭	8・9

九州地区・全国高専体育大会	10・11
英語弁論大会・ホンダエコラン ソーラーボート	12
ロボコン・プロコン	13
陸上記録会・資格試験合格者	14
クラブ紹介	15
トピックス・編集後記	16

※本文中において、学生氏名の前にある英数字は、所属クラスを表します。
数字は学年、英字は学科(M:機械工学科、E:電気工学科、I:電子情報工学科、C:物質工学科、A:建築学科、専:専攻科)です。

出席者	専攻名	研究テーマ
尾道 健一 君	生産情報システム工学専攻	Javaによる機械の動作シミュレーションの研究
坂口 天志 君	生産情報システム工学専攻	味覚センサを用いたアミノ酸の味質の研究
加藤 聡 君	生産情報システム工学専攻	パルス静電応力法による誘電材料の空間電荷計測
阪井 努 君	応用物質工学専攻	二酸化マンガ固定化膜を用いた過酸化水素センサの性質
久保田真次 君	建築学専攻	組み合わせ応力の相関を考慮した降伏線理論に基づく 既往RC柱試験体の水平耐力の解析

司会/森 紳太郎 (電子情報工学科)



司会 学位授与機構への学習成果のレポート提出も終えて一区切りついたところだと思いますが、まだまだ研究が忙しい中、出身学科を代表して出席して頂きありがとうございます。初めての専攻科学生として約1年半を振りかえって

いろいろなお話を伺いたいのですが、まずは10月初めにレポートを提出し終えての感想をお願いします。

尾道 レポートは9月に入ってから書き始めたのですが、実は9月22日が公務員の試験日だったので試験勉強と重なり、実質は10日くらいしか期間がありませんでした。指導教官からは「表現がおかしい」「作文能力をつけなさい」など何度も注意を受けました。その甲斐があって自分自身ではかなり良いレポートができ上がったと感じています。



坂口 私はレポートには2、3週間をかけたのですが、日ごろからあまり真面目に取り組んでいなかったため直前で苦しい思いをしました。味覚センサは気温や湿度の影響を受けやすく、実験の準備が大変な上に、精度の高いデータが

得られなかったりで、何度も実験しました。さらに、自分の言葉で文章が書けなくて5回くらい書き直しをしました。

加藤 私は約一ヶ月前から取り組んでいたのですが、なかなか筆が動きませんでした。レポートの作成と学

会発表が重なっていたので、逆にレポートを発表内容に応用することができました。私もやはり文章が書けなくて苦労しました。

阪井 1年生の間は校舎の改修工事のためにあまり研究が進められなかったことが大変残念でした。レポート作成は8月の終わりから取りかかったのですが、みんなと同じように日本語の表現がおかしくて10回位は書き直したと思います。



久保田 私は5年生から引き続きの研究テーマだったので、2001年12月に学会発表したとき一度まとめていて、さらに2002年の2月に2度目の学会発表したものに付け加えることでレポートが作成できました。したがってあまりばたばたすることはありませんでした。

司会 みなさん、最低5、6回は書き直しをされているようで、日ごろから論文を書く力を養っておくことが大切そうですね。では、先ほども少し出ましたが、研究そのものについて苦労したところがあれば是非お話を聞かせてください。

尾道 私は5年生からの引き続きなので苦労はあまりしていないのですが、提案している新しい制御方法の勉強が大変だったのと、C言語やBASICでできたことをJava言語でどう制御するかが非常に難しかったです。

坂口 5年生の卒業研究と研究内容が変わったので一から勉強したということと、研究自体が電気というより化学に近い内容で、論文を書くとは化学の論文になっ

てしまうのでどうやって電気の視点で書くかという難しさがありません。



加藤 5年生から継続している研究だったのですが、5年生のときに測定したデータの解析がうまくいかなかったのでノイズの除去作業をしました。今年の夏には計測装置の動作がおかしくなり、部品を修復して動作不良を改良しました。

しかし、図面でしか知らなかった回路の実物を目にすることができたという良かった点もあります。

阪井 4年の後期から同じ研究をしています。専攻科に入ってから測定に使用するセンサを新しいものに替えた際、古いものと原理が異なっていたので過去のデータとの相関性を確認するのに非常に時間がかかりました。

久保田 データと言えば、専攻科1年の春にコンピュータの不調でデータが全て駄目になり、夏休みまで論文を見ながら逆にデータを打ちこんだことがあります。

司会 バックアップの重要性を身を持って体験したわけですね。では、専攻科で得たことや大学とは違う専攻科の良さなど語ってください。

尾道 授業が楽しくなりました。人数が少ないので、先生が一方的に話すのではなくて授業中の先生とのやり取りが面白かったです。

久保田 自分の時間が持てるようになりましたね。また、学会発表では、違う世界を見ることができて刺激になりました。

加藤 大学と比較して、大学の講義では高専で勉強した内容と同じことをやるのがあって重複する場合もあるのに対して、専攻科ではそれまで5年間いた環境はほとんど同じで、さらにその上を学べるのが良かったです。



阪井 大学院のように少人数の講義で質問がしやすかったりする点も大学での講義より良いのではないのでしょうか。それにゼミ形式の講義が多くて自分で調べものをして考える力がついたと思います。

尾道 私は先生と1対1の科目があって、自分が勉強して先生に教える形式だったのでこれはかなり力がついたと思います。

司会 いろいろと専攻科の良い面があるようですね。

それでは、専攻科の1年生やこれから専攻科にくる後輩達へのアドバイスや要望などをお願いします。

坂口 研究はしっかりとやって論文の取りかかりを早くすること。論文のまとめは1ヶ月では終わりません。常々こまめにまとめておく必要があります。

久保田 やる気にならなくても研究をやらないといけないし、やったことをこまめにまとめておくことが必要だと思います。また、データを漫然と取るのではなく、論文にまとめるという視点で何が必要かを考えてデータを取ることが大事ですね。

阪井 英語はとても大事です。今でも話すのは難しいけれど、論文を読む力はついたと思います。

加藤 空き時間を有効に使ってください。研究や資格の勉強などをして、空き時間を無駄に使って欲しくないと思います。私は今思えば無駄な時間を過ごした気がします。



尾道 本科生に対しては、大学に行くより専攻科に来た方がいろいろと勉強できて楽しいと思います。環境が変わらないので先生とも話がしやすいですし、なにより授業が楽しかったです。

久保田 私達は専攻科の1期生で、講義に関しては先生方も手探りだったので新鮮さがあったと思います。授業でないところで学生と教官が互いに話し合って授業の形を作っていたところが面白かったです。

坂口 こういうことは1期生の特権だと思います。

一同 同感です。

加藤 専攻科でちょっと残念だったのは学校行事に参加できなかったことですね。球技大会などで専攻科と本科生との交流ができて専攻科のPRができるのですが。

司会 本日はいろいろな話を聞くことができました。初めての専攻科の学生がこれまでの1年半を振り返ってどう考えているのか、非常に気になっていたのですが、専攻科に来て良かったし、楽しかったというのが皆さんに共通の気持ちのようですね。

一同 そうです。

司会 それを聞いて安心しました。あと半年間ほどですが、さらに研究を進めて有意義な学生生活を過ごしてください。どうもありがとうございました。

今回は、物質工学科の田中康徳先生、電子情報工学科の山崎直子先生の研究室を訪ね、お話を伺いました。

田中康徳 研究室 (物質工学科)

研究の内容についてお聞かせ下さい。

溶射技術に関する研究をしています。溶射とは金属やセラミックス、プラスチックなどあらゆる材料を火炎やプラズマなどで熔融し、微粒として、様々な材質の母材表面に皮膜を作製する技術です。ところが、溶射で皮膜を作るためには、多くの「試行錯誤」が必要で、いわゆる「経験」がものをいうことが多いのです。そこで、作製効率をよくするために重要な点となる皮膜と母材の関わり、中でも皮膜を作っている一つ一つの粒子が母材表面でどのような条件で、どう広がり、凝固するかについて研究しています。

研究をはじめたきっかけは？

5年前に本校と豊橋技術科学大学との教官交流制度で転任した先の研究室ではじめました。最初は「溶射って何？」という全く何も知らない状態でしたが、今ではすっかり「溶射マニア(?)」です。技科大では2年間この研究をやり、その後、有明高専に戻ってからも続けています。

今後の研究の展開をお聞かせ下さい。

基礎的な研究と並行して溶射技術を利用した実用的な機能性皮膜を作製したいと考えています。たとえば、現在はビルなどの壁に溶射しておくくと大気がきれいになり、しかもメンテナンスフリーの触媒機能を持つ皮膜を作ろうとしています。将来、校舎の壁にもつけられたらいいのですが。

学生へのアドバイスをお願いします。

勉強でも日常生活でも、常に「考える」習慣をつけることが大事だと思います。



山崎直子 研究室 (電子情報工学科)

研究の内容についてお聞かせ下さい。

『ソフトウェアの理解容易性計量に関する研究』です。この研究はソフトウェア工学という研究分野に位置付けられます。ソフトウェアの理解容易性は、ソフトウェアの開発や改良作業に影響を及ぼす特性ですから、この特性を正確に計量できれば、改良作業にかかるコストが容易に予測できるようになります。ところが、この特性は使う技術者の個々の能力に影響されますので、今までは感覚的にしか論じられていませんでした。そこで、私はこの理解容易性計量という問題にチャレンジしています。私が提案する計量法には、認知心理学(人間の知性や思考に関する学問)の概念を活用しています。

研究をはじめたきっかけは？

学生時代にはコンピュータによる学習支援システムの研究を行い、そのときに認知心理学について少し勉強しました。私がある経験を持っているからだと思いますが、有明高専着任半年後、大学の先生から、「理解容易性計量の研究をやってみないか」と勧められたのがきっかけです。私もこの研究に大変興味があったので、研究を始めることにしました。

研究の面白いところは(特長は)？

ソフトウェア工学の研究に「認知心理学」という異なる研究分野の概念を利用しているところが特長で面白い所だと思います。

学生へのアドバイスをお願いします。

自分のことを振り返って思うのは、学生時代の勉強やさまざまな経験は、そのときは無駄だと思うことであっても、その後の人生において何かしら役に立っているということです。



シリーズ 中学校訪問

荒尾第五中学校



10月3日に、荒尾第五中学校を訪ね、狩野輝幸校長先生にインタビューしました。

原田：荒尾第五中学校の概要、特色、教育目標、教育活動等について教えていただけませんか。

狩野校長：本校は昭和35年に荒尾第三中学校分室としてスタートし、翌昭和36年9月に独立しました。生徒数は、昭和37年の1144名をピークに減少をたどり、現在は105名です。

教育目標は「人間尊重の精神を基底におき、個性と創造性の伸長につとめ、生きる力を身につけた生徒の育成をめざす」ですが、その一環として「生徒・保護者からの信頼回復」「いじめ不登校ゼロの推進校」「あなたがいてこそ荒尾五中」の3つのスローガンをかかげております。

原田：具体的にはどのような活動あるいは指導をなされていますか。

狩野校長：ボランティア活動で地域の清掃や花壇作り（プランター）を行っています。今年もプランターを老人福祉施設、万田郵便局、万田保育園や万田炭鉱館に寄贈しました。

「ふれあいコンサート」も年に一度開催しています。地域の方々、保護者、卒業生も出場し、生徒たちはお菓子を作り、お茶を用意し、交通整理やあいさつと大忙しでした。「あなたがいてこそ荒尾五中」のタイトルで学校便りを月2回発行しております。これは生徒一人一人が荒尾五中を支えているということを浸透させるためです。

原田：心が暖まりますね。部活動について教えていただけませんか。

狩野校長：文化系部では音楽部と家庭科部があります。これらの部は先ほどの「ふれあいコンサート」で活躍し

ています。体育系部には野球部、バスケット部、バドミントン部、陸上部、サッカー部があります。部員数が少ないのでなかなかよい成績はあげられませんが、今年、野球部は荒尾市の中体連で優勝し、有明大会でもベスト4に入りました。

原田：頑張っておられますね。次に、生徒会活動について教えていただけませんか。

狩野校長：年間を通して奉仕活動や体育祭や文化祭などの学校行事運営で活躍しています。

原田：奉仕活動はどんなことをされているのですか。

狩野校長：学内では、生徒会通信の発行など広報活動や朝のあいさつ運動を行っています。学外では、ボランティア委員会と協力し、地域の清掃活動や、地域の方々とのふれあい、楽しめる行事を計画、実施しています。

特に、あいさつ運動のおかげで「五中の生徒は良くあいさつができてすがすがしい」と地域の評判を得ています。

原田：有明高専に対する意見はありませんでしょうか。

狩野校長：特にありません。今年は、有明高専の学校説明会に4名程参加しますのでよろしく願います。

原田：本日はお忙しい中、貴重な時間を割いていただきありがとうございました。

この後、進路指導の村田先生と懇談し玄関を出ると、生徒たちの作ったプランターが置いてあり、その中にサルビアやペゴニアの花がきれいに咲いていました。私は生徒たちの心の温もりを背中に感じ、荒尾第五中学校を後にしました。

（聞き手：建築学科 原田克身）



ロボットJリーグ有明ステージ2002

8月4日(日)に、荒尾総合文化センター大ホールで有明高専主催の小・中学生ロボットコンテスト「ロボットJリーグ有明ステージ2002」が開かれました。今回で8回目を迎えるコンテストに大牟田・荒尾市内の小・中学校32チームから108人の児童・生徒が出場し、自作のロボットで競技を行いました。この日のために、7月23日から9日間、機械工学科の教職員と学生の指導のもとに、ロボット製作が寮食堂で行われてきました。独創的な形をしたロボットや、鯨、鳥模様など多彩なデザインのロボットが、昨年度よりもスピーディにそしてより正確にドリブルやシュートを展開し、会場内は熱気の渦に包まれました。なお、ドリブル部門では大会新記録の11.23秒ができました。

- 優勝：勝立中(歴史戦隊法隆寺)
- 準優勝：大牟田小(ウインKTM)
- 優秀賞：歴木中(ボイジャー)、八幡小(チーム八幡)
- アイデア賞：田隈中(Free bird)
- 美術賞：銀水小(チームザコブラ)
- ロータリークラブ賞：手鎌小(BIBA TEGAMA☆)
- 大牟田市教育委員会賞：甘木中(スリースターズ4)
- 荒尾市教育委員会賞：荒尾第一中(アイボ)

(教務主事補 南 明宏)



公開講座

- やさしい化学と生物の実験
7月25日(木)・26日(金) 中学生
- 自分のホームページを作ろう
7月30日(火)・31日(水) 中学生
- 中学校教員のための実験講座
7月31日(水) 中学校教員
- 紙で橋を作ろう
8月20日(火)・21日(水) 小学5・6年生、中学生
- 紫キャベツを使って身の回りの酸・アルカリを探してみよう!
8月26日(月) 小学5・6年生、中学生
- 作品から見る菅原道真の一生
～菅原道真公没後1100年祭にちなんで～
〈一般市民20名〉
10月12日(土)・19日(土)・26日(土) 一般市民



入試説明会・学校見学会

10月26日(土)・27日(日)、中学3年生・保護者・中学校の先生に対して来年度の入試説明会および学校見学会が行われました。約400名の方が来校され、1時間ほどの高専や入試の説明の後、校内5学科を見学されました。



夏季実習報告

夏季実習を終えて

4C 木村圭輔

私は7月22日から7月31日までの10日間、山口県徳山市にある出光興産株式会社徳山製油所で夏季実習を行いました。

徳山製油所は、一般的に知られている原油からガソリン・灯油などを精製する製油所部門と、製油過程で作られるナフサからエチレンや液状ゴム・水添石油樹脂など化学品を製造する工場部門の二つの部門からなっています。

この実習で私は、実習生全体の課題として訓練プラントを使った装置操作を人事課で、個人課題である常圧蒸留装置の概要と製品性状を製油一課で、行いました。

個人課題のほうでは、装置の流れと原理を理解することを目的に、製油一課の方々からいろいろ教えていただきながら、学ぶことができました。この課題自体は非常に早く終わったので、この課の方々から社会に出るうえで何が必要か、また人生教訓などさまざまなお話を伺いました。

訓練プラントのほうでは、現場と制御の2つのグループに分れそれぞれが連携して、異常事態が起こったときどの装置が異常であるか発見し、またどのような措置によって装置を止めずに正常状態に戻すかが課題でした。実際はまず何が異常であるのかを発見するのに時間を要してしまい、装置をたびたび止めてしまいました。この訓練用の装置は体育館の2倍程度の広さでしたがそれにもかかわらず、たびたび装置を止めてしまいました。本当の装置はこれよりもはるかに大きく、非常事態が発生したら、どこが問題の発生箇所なのかを発見するのが非常に難しそうなのに、これを動かしている出光の社員の現場の方々には、実際には難しくありません。装置を動かしておられ、このことからいかに装置全体を理解し仕事を行っておられるのかが分かりました。

10日間という短い期間でしたが、実際の社会の様子は聞いていたのと実際に体験するのでは大きく違いました。今のままでは社会に出ても、会社で何の役にも立たないということを実感しました。そしてこれから自分が何をしなければならないのかを知ることができました。今回の実習は本当にさまざまな経験ができ非常に有意義でした。



現場監督になった？私

4A 林 勇 樹

私は株式会社穴吹工務店が福岡市で施工しているマンションの建設現場に、7月22日から8月2日までの2週間、実習に行きました。

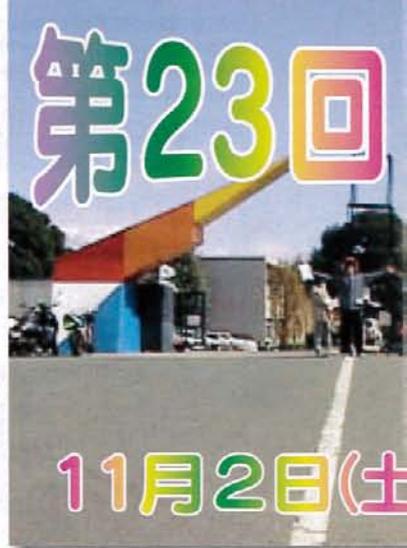
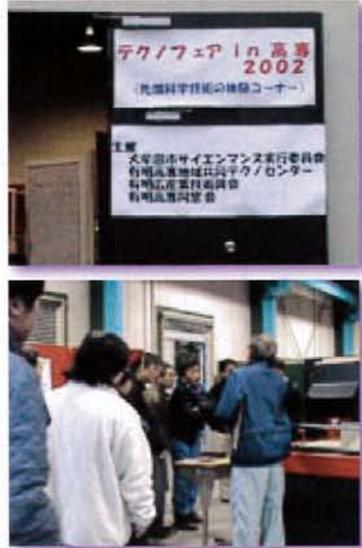
学校では現場のことについては何も教わっていませんでしたが、そのとおり初日はまったくついていけませんでした。自分が何をしようか分からない上に、緊張していて質問することすらできませんでした。しかし2日目以降は初日の反省を踏まえてどんどん質問したり、職人さんに積極的にあいさつ等をして自分を出したので、名前を覚えてもらえたり徐々に現場に慣れることができました。

実習期間中の工事内容はコンクリートの打設で、私はコンクリート打設前のフープ筋のチェックや型枠のチェックのために写真を撮るなど、毎日違う仕事を任せられ、とても充実した日々を送りました。また実習先ではみなさんがとても優しく接してくださいましたので、事務所内でもとてもいい雰囲気です仕事をすることができました。

実習中には、レベルの見方を始め、初めてのことがたくさんあり、交わされる用語の意味が分からないなど戸惑うことも多くありました。けれども日数を重ねていくうちに、私は現場監督という、工事員の人が安全に作業できる環境をつくっていく仕事に興味を持つことができました。また自分がこれから何をすればいいのか、何をすべきかを考えさせられました。この実習は私にとって、貴重な体験となったと思います。

最後に、来年以降の実習で建設現場に行きたいと思っている後輩へのアドバイスをします。まず自分で事を起こさないと、2週間はすぐに終わってしまい、無駄な実習になってしまいます。特に、分からないことについては質問すること、そしてあいさつや機敏な行動が求められます。また、夏の現場はとにかく暑いので、水分補給をし、ご飯をしっかり食べていないと、すぐにバテてしまいます。注意して下さい。





機械工学科



電気工学科



電子情報工学科



催し物





文化講演

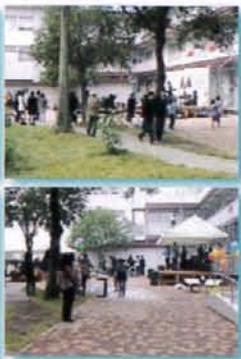
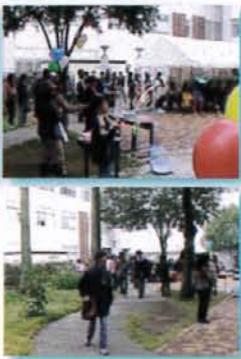
日本の宇宙開発の現状と未来

宇宙開発事業団 宇宙輸送システム本部
種子島宇宙センター 次長

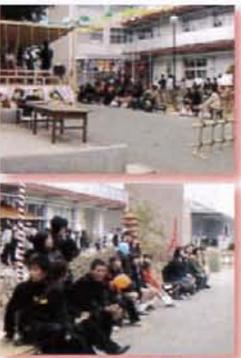
園田 昭 眞 氏

(有明高専 機械工学科 2 期生)

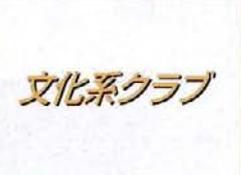




物質工学科



建築学科



文化系クラブ



中夜祭



九州地区高専体育大会

7月19日(金)
7月21日(日)

平成14年度 第39回九州地区国立工業高等専門学校体育大会成績

〈久留米会場〉

●陸上競技

男子100m	優勝	俣嶋一克 (5I)
〃	準優勝	井形 亮 (1E)
男子200m	7 位	和泉洋平 (4M)
男子4×100mリレー	準優勝	井形 (1E) 染岡 (5A) 俣嶋 (5I) 和泉 (4M)
男子4×400mリレー	7 位	境 (2-3) 俣嶋 (5I) 的場 (1C) 染岡 (5A)
女子100m	6 位	柿原真実 (1C)
〃	7 位	石橋絵美 (2-3)
女子4×100mリレー	優勝	柿原 (1C) 石橋 (2-3) 尋木 (4A) 黒田 (4C)
女子走幅跳	準優勝	黒田英里 (4C)
〃	4 位	石橋絵美 (2-3)
女子砲丸投	優勝	獅子原示紗 (4I)
〃	準優勝	山口 佳 (3A)

●バドミントン

男子団体戦	準優勝	
女子団体戦(オープン)	優勝	
男子シングルス	3 位	池上慶祐 (1E)
女子シングルス	準優勝	柿木美沙 (1C)
〃	3 位	柿木美紀 (3C)
女子ダブルス	優勝	岡部広奈 (4C) 柿木美紀 (3C)
〃	3 位	緒方里美 (3A) 柿木美沙 (1C)

●ソフトテニス

4 位

●ハンドボール

予選敗退

●水泳

団体戦	総合優勝	
男子100m平泳ぎ	優勝	古田浩一 (4A)
〃	3 位	井形史朗 (3I)
男子100m背泳ぎ	3 位	石田泰宏 (3A)
男子200m背泳ぎ	3 位	石田泰宏 (3A)
男子200mバタフライ	3 位	松尾芳彦 (1M)
男子200m個人メドレー	優勝	古田浩一 (4A) (大会記録)
男子400mリレー	3 位	陶山 (1M) 石田 (3A) 東房 (2-4) 古田 (4A)
男子400mメドレーリレー	準優勝	石田 (3A) 古田 (4A) 陶山 (1M) 東房 (2-4)
女子100m平泳ぎ	準優勝	西山絵里子 (4I)

〈佐世保会場〉

●バスケットボール

男子	予選敗退
女子	優勝

●硬式野球

準優勝

●卓球

男子団体戦	優勝	
男子シングルス	3 位	上野達郎 (4E)
男子ダブルス	優勝	古賀隆博 (4I) 福永洋介 (4I)
〃	3 位	岡 優邦 (5M) 吉田 努 (5I)
女子シングルス	3 位	古賀綾子 (3I)
女子ダブルス	3 位	江崎千春 (2-1) 金子絢美 (1I)
〃	3 位	古賀綾子 (3I) 越智亜祐美 (2-2)

女子団体戦(オープン) 準優勝

〈北九州会場〉

●サッカー

3 位

●テニス

予選敗退

●剣道

予選敗退

●バレーボール

男子	準優勝
女子	準優勝

●柔道

個人戦 60kg以下級 準優勝 石橋太郎 (3I)



全国高専体育大会

8月8日(木)～8月12日(月)

平成14年度 第37回全国高等専門学校体育大会成績

〈一関高専担当会場〉

●陸上競技

男子100m	7 位	俣嶋 一克 (5I)
〃	予選敗退	井形 亮 (1E)
男子4×100mリレー	2 位	井形(1E) 染岡(5A) 俣嶋(5I) 和泉(4M)
女子走幅跳	4 位	黒田 英里 (4C)
女子砲丸投	11 位	獅子原示紗 (4I)
〃	15 位	山口 佳 (3A)

●バスケットボール

女子 準優勝

●卓球

男子団体戦	予選敗退	
男子ダブルス	3 位	古賀 隆博 (4I) 福永 洋介 (4I)



〈仙台電波担当会場〉

●バドミントン

男子団体戦	3 位	
女子シングルス	準優勝	柿木 美沙 (1C)
女子ダブルス	優勝	岡部 広奈 (4C) 柿木 美紀 (3C)



〈福島高専担当会場〉

●水泳

団体戦	28 位	
男子100m平泳ぎ	6 位	古田 浩一 (4A)
〃	予選敗退	井形 史朗 (3I)
男子100m背泳ぎ	〃	石田 泰宏 (3A)
男子200m背泳ぎ	〃	石田 泰宏 (3A)
男子200mバタフライ	〃	松尾 芳彦 (1M)
男子200m個人メドレー	5 位	古田 浩一 (4A)
男子400mメドレーリレー	予選敗退	石田(3A) 井形(3I) 陶山(1M) 東房(2-4) 西山絵里子 (4I)
女子100m平泳ぎ	〃	



〈鶴岡高専担当会場〉

●バレーボール

男子 予選敗退

〈宮城高専担当会場〉

●柔道

個人戦 60kg以下級 1回戦敗退 石橋 太郎 (3I)

第32回

西日本地区高等専門学校弓道大会成績

期日／平成14年7月24日(水)・25日(木)

会場／高知県立弘徳館弓道場

成績	男子団体の部	4 位	
	女子団体の部	4 位	
	女子個人の部	3 位	野中裕美(4M)



英語弁論大会

2年2組 岩永 千春

英語弁論大会に出場して

第35回九州地区国立高専英語弁論大会が、7月26日に大分高専で行われました。

有明高専からは、暗唱の部に建築学科1年の山鹿ひろみさんと私の2人が出場しました。結果は、2人とも残念ながら入賞することができませんでした。

私も山鹿さんも弁論大会に参加するのは初めてのことで、不安がありましたが、徳田先生の熱心な指導もあり本番を無事に終えることができました。

弁論大会には、英語で自分の伝えたいことを人に伝えることができるという良いところがあります。他にも、各高専の人達と友達になりお互いの情報を交換できるというところがあります。

弁論大会を通して、以前よりも英語の発音が良くなり、イントネーションやジェスチャーも少し付けられるように

なるなど、これから役に立つた皆さんのことを得ることができたような気がします。私はこの経験を今後に関し、よりよく活動できるように頑張っていけたらよいなあと思いました。



ホンダエコラン

5M 蓮尾 武志

ホンダエコノパワー燃費競技会に出場して

私達、自動車工学研究部は7月28日に熊本県大津市のHSR九州で開催された、ホンダエコノパワー燃費競技会に出場しました。

これまで参加してきた大会の反省に基づき、今回のマシン製作にあたっては、エンジンの安定性、マシンの軽量化、旋回時の抵抗減少のためステアリングの大幅改造に重点を置き、去年のマシンをベースとして改良を加えました。

今年から大会のレギュレーションが変わり、前回までは7週の1ヒート制でしたが、今大会からは3週の2ヒート制となり、良い方の記録をチームの記録とすることになりました。

また、5年生と3年生の部員が新たに入り、人手も多くなったので作業の幅が広がって、ピット作業も迅速にこなせるようになりました。

大会の結果としては1リッター当たり166kmという結果

を出すことができました。今大会は我々5年生にとって最後の大会でしたが、最後にふさわしく、チーム紹介では会場中の笑いもとり、結果も残し、最高の大会になりました。

燃費の値としてはあまり誇れるような数値ではありませんが、この4、5年間は完走ができてなかったのが、今年は、来年その次に繋がるような結果が出せてよかったと思います。



ソーラーボート

ソーラーボートチーム一同

「念願の周回決勝レース出場!!」

第7回を迎える柳川ソーラーボート大会に今年も出場しました。私たちのチームはものづくりの好きな学生が自発的に集まって編成されていますので、チームワークは毎年最高です。今まで果たせなかった夢の周回決勝レースへの出場を目標として、春先から、昨年度苦勞して製作した船体を船内機へと改造し、さらにスクリューの検討なども行いました。その結果、予選周回レースでは昨年よりタイムを短縮することができ、念願の決勝レースへの出場権を得ました。決勝ではトラブルなどもありましたが、無事完走することができました。決勝レースに参加したことで新たな問題点も明らかになり、その対策法もすでに考えています。

さらなるタイム短縮も期待できることから、来年度は上位進出を目指したいと今から夢が膨らんでいます。

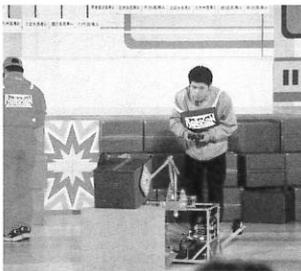


ロボットコンテスト

A チーム 「反まち」

5M 川 端 晋 輔

私達、ロボコンAチームは6月頃から戦略を考え始めて夏休み、土日などほとんど毎日学校に出てきて製作を行ってきました。1年生から5年生まで、ロボコンを経験している人もいれば初めて参加する人もいました。初めての人は、経験している人がアイデアを積極的に出すことに少しとまどいがあったように思います。それでも夏休みに入って製作段階に入ると少しずつ経験者から工作機械の使い方やロボットを製作するのに必要な技術を教わり、9月には普通に作業ができるようになりました。製作では、ロボットの形ができた部分から動作確認を行ったりしたのですが、その度に問題に直面してそれらの問題解決にチームのみんなが悩みました。そんなとき、先生や技官の方々に適格なアドバイスをしてもらい、本番数日前にロボット全体を作り上げることができました。本番前日に対戦相手の動きを見て戦略をねりにねって本番にあたったのですが今一步のところまで惜しくも負けてしまいました。意気消沈して閉会式を向かえていたのですが、なんと大会特別賞に輝いてしまいました。その時はモチガイかと思ったくらいでした。来年は特別賞を優勝にレベルアップさせていきたいです。



B チーム 「メカチャリー」

5M 前 川 良 平

今回のNHKロボットコンテストのために僕らBチームは夏休み前から集まってロボットを作ってきました。はじめはどんなロボットにするか意見を出し合い、夏休みには朝から皆で集まり製作していました。僕らのチームではロボットの主要な部分を学年ごとに手分けして作り、低学年にもそれなりの責任を持たせてきました。だからといって学年ごとにバラバラで作業していたという訳でもなく、最終的には一つの物にするので1年生から5年生までみんな仲良く作業していました。大会が近づくにつれて夜も遅くまで残るようになりましたが、チームみんなでハンバーガーを食べたりして楽しく作業をしていました。大会には最終調整を終えて余裕をもって望むことができましたが、本番では思うような結果が得られず悔しい思いをしました。しかし大会の雰囲気を感じたり他校のいろんなロボットを見ることができ、いい経験をすることができました。何より先生方や技官の方々の協力のもと、チームで一つの物を作り上げられたことがいい経験だったと思います。来年も参加するメンバーには今年の反省をふまえて、より良い結果を残して欲しいです。



プログラミングコンテスト

5I 伊藤 愛美

私たちは情報・電気の学生7名と指導教官2名という構成で、10月12・13日に石川県金沢市で開催された「全国高等専門学校第13回プログラミングコンテスト」に出場しました。

プロコンは競技・課題・自由の3部門で開催され、6月末の予選で、情報の伝達をテーマにした競技部門に3名と、自由部門に私を含めた4名の出場が決定しました。私が出場した自由部門では「ぬいぐるみの型紙作成システム」で応募し、一通りの動作が実現したのは準備開始から約半年経った本選のわずか1週間前で、宿泊先にノートコンピュータと資料を持ち込んでギリギリまでプログラムを改良しました。1日目は自由部門のプレゼンテーション審査と競技部門の予行演習が、2日目にデモンストレーション審査とマニュアル審査・競技本選が行われました。

努力の甲斐あって自由部門で敢闘賞を受賞し、また競技部門も健闘して準決勝進出を果たしました。慌ただしく過ぎた2日間でしたが、高専生活最後の年に最高の思い出ができました。

応援に駆けつけてくださった校長先生をはじめ、協力して頂いた先生方、応援してくれた友人たちに、心から感謝いたします。



陸上記録会

9月13日(金)に行われた陸上記録会では、下級生の活躍が目立ち、2年3組が最優秀クラス、1Aが優秀クラスに選ばれました。近年、校舎改修や悪天候に見舞われ、5年生も経験したことがなかった陸上記録会ですが、高専ならではの結束力でスムーズに、そして楽しくやれたのではないかと思います。

(5 E 坂本 政徳)



平成14年度 陸上記録会結果

種目	優勝者	記録
(男子)		
100m走	4M 和泉洋平	11"76
200m走	5M 立石龍弘	26"46
400m走	5C 玉越充洋	56"96
1500m走	2-1 落田将太	4'51"41
走り高跳び	3M 野田晃助	1m55cm
走り幅跳び	2-3 江崎圭佑	5m75cm
ハンドボール投げ	1A 草場紀法	44m
4×100mリレー	4 E	50"99
(女子)		
100m	2-3 石橋絵美	14"39
1000m	4C 平有加利	3'47"78
走り高跳び	2-3 平岡已知	1m32cm★新記録★
走り幅跳び	4C 黒田英里	4m70cm★新記録★
ハンドボール投げ	2-4 鳥巢友希	24m70cm
4×100mリレー	2-3	62"11
学科対抗リレー	電気工学科	6'00"43
◎総合優勝	2年3組	
◎準優勝	1年建築学科	
◎3位	3年建築学科	



第51回 工業英検4級合格者

3M	上田 慎吾			
3E	荒木 祐輔	井手 秀一	小合瀬弘樹	木山 拓哉
	久保 祐貴	古賀 昭徳	古賀 智	近藤 禎尚
	中山 泰成	西田 剛	二反田裕樹	東 修三
	米村 暢之			
3C	嶋田 明香	西住 加奈		
3A	石田 泰宏	伊藤 志真	江上 草	辛島 一樹
	川口佐知子	清輔 夏輝	小林 誉典	阪田由香利
	佐竹 敬司	佐藤 望美	中島 薫	西川 秀一
	花田由佳里	東 優子	福田 雄大	宮田 英宣
	矢津田衣美	山口 一彬	吉田 沙織	
2-1	久保山かおり			
2-2	岩永 千春	黒田 絵美	執行 百恵	吉武 律子
2-3	大藪 佳代	黒田 侑香	西田 久晃	平岡 已知
	平本 優			
2-4	尾形 大	千葉 祥治	益本 真二	元田 晶子
2-5	阿津坂 隆	市岡 祥一	古賀 直也	田中 絵理
	塚本 頌太			
1C	柿原 真実			

平成14年度 第1回 英語検定合格者

準2級		
4A	河野 晶子	
3M	水町 亮介	
3E	木山 拓哉	藤江 周作
	松下 和則	
3I	菅原美和子	
3C	小宮 正登	塚本 文
3A	江上 草	川口佐知子
	城崎 達仁	中尾 麻美
	中島 薫	山下 瞳
2-1	久保山かおり	山口美菜子
2-3	堤 喜恵	
2-4	岩 亜紀征	中野 匡章
	吉開 暢之	
2-5	上仮屋 徹	
1E	浦田 大輔	
1I	古川勇志郎	
3級		
1I	堤 理加	廣松幸太郎

シリーズ クラブ紹介

剣道部

こんにちは、剣道部です。剣道部は現在部員20名で活動しています。部員は決して多いわけではありませんが、一人一人が毎日練習で汗を流し、技術の向上と心身の育成を目標に取り組んでいます。活動時間は、多少ばらつきはありますが、大体平日が授業終了後から6時半まで、土・日が10時から12時まで活動しています。練習メニューは主に顧問の塚本邦重先生が指示され、主将である私の号令で活動を開始し、練習中は集中力が途切れることなく、そしてお互いに悪い点などを注意しあい、切磋琢磨しています。また、テスト期間中の自主練習もかかさず、文武両道を実践できている部員が多いのも特色です。練習場所は主に武道場ですが、外周を走ったりもします。

剣道と言えば暗いイメージを思い浮かべがちですが、部の雰囲気は明るく、活気に満ちあふれ、その中で個人個人の個性がいきっていて、流れだす汗も爽やかに感じます。現在は私が部長をやっていますが、理解のある仲間・後輩、そして先生のおかげで、不安材料は一つもなく、今まで築いてきた伝統も引き継いでいけそうです。また、剣道だけにこだわらず武道全般に共通して言えることですが、礼儀作法がきちんとしています。先生や先輩・後輩の間では当然のこと、武道場に入るときもあいさつをし、靴もきちんと揃え、もちろん練習は礼に始まり礼に終わります。

来年は高専大会の開催校です。現在は全国制覇を目標にかかげ、一心不乱に練習に取り組んでいます。これからも部員一同頑張りますので応援よろしくをお願いします。

(4M 田嶋 大輔)



自動車工学研究部

私達、自動車工学研究部は自動車の持つ可能性の追求と、自動車の恩恵にあやかる我々人類の生活を有意義なものにするために日夜研究を続けています。

その研究発表の機会として7月末に行われるホンダエコノパワー燃費競技会に毎年参加しています。また、高専祭では部室前で製作車両の展示と試乗を行っていました。

部員数は10名程度ですが、少人数なりに楽しく、自由に部活動を行っています。春から夏にかけては競技会に向けてのマシンの製作を、それ以外は高専祭に向けて車両の製作と来年度に向けてマシンの改良と研究を行っています。

自動車工学に興味のある人、単に車やバイクが好きな人、楽しい部活動を過ごせていない方はぜひ自動車工学部へ入部してみてください。部員の大半は上級生なので特に下級生の部員を募集しています。また、私たちの心と体のお世話をしてくれるようなマネージャーも募集しています。油にまみれて疲れきったボクたちこそっと微笑みかけてくれる天使のような制服の女子学生、もしくは自動車工学研究部に興味を持った男子学生は一度遊びに来てください。また、バイクが故障してしまったときなどは、遠慮なく我々に相談してください。

部室にいないときは5M蓮尾までご連絡ください。

(5M 蓮尾 武志)



トピックス

■■■連絡通路完成■■■

一般棟・物質棟—電気棟・機械棟—建築棟の2・3階を繋ぐ連絡通路ができました。学科間の移動がたいへん便利になりました。また建築棟にはエレベータが設置されました。



■■■電気棟・建築棟間中庭■■■

電気棟と建築棟の間の中庭が整備されました。



■■■防火避難訓練■■■

10月22日(火)7限目終了後、「物質工学科1階実験室から出火」との想定のもとに防火避難訓練が実施されました。昨年は雨天のため中止となりましたので、2年ぶりの訓練となりました。

肌寒い強風の中、学生・教職員一同がグラウンドに避難し、約11分で避難および人員確認を完了しました。また、避難訓練と並行して、事務部消火班+選抜教官との放水訓練も行われました。

その後、6つのブロックに分かれての水および粉末消火器の操作訓練を行いました。

消火訓練終了後、大牟田消防署より講評を頂き、最後に劇物・危険物事故処理対応の展示訓練がありました。訓練終了後に消防署から人員点呼の遅れ等の問題点がいくつか指摘されました。次回の訓練ではこれらが改善されることを期待します。

(教務主事補 南 明宏)



編集後記

専攻科が生まれて2年が経ち、本号で専攻科を特集として取り上げました。皆さんは、専攻科をどう考えてますか。「同じ環境に7年間いるので生活に刺激がない」といったデメリットもありますが、「少人数によるマン・ツー・マン教育である」「本科と専攻科の教科目の重複がない」「卒業研究の持続性と発展性がある」「授業料が安い」などのメリットがあります。さらに、日本技術者教育認定機構から有明高専の教育プログラムが認められると国際資格を有する技術士の一次試験が免除されます。そのためには、それぞれの科目で60点以上の成績を修める必要があります。これまで本科で50点を目標としてきた学生諸君がいるかもしれませんが、最低でも70点を目標してほしいものです。国際的に通用する技術者を目指してがんばりましょう。

有明高専だより 第108号

平成14年11月28日

編集・有明高専広報委員会

発行・有明工業高等専門学校

〒836-8585 大牟田市東萩尾町150

TEL 0944-53-8861(学生課)

<http://www.ariake-nct.ac.jp/>